

(特非) 東京労働安全衛生センター

2つの大震災から学び 来るべき都市型地震に備える アスベスト対策の提言と普及活動

一般助成

3年目

知識の提供・
普及啓発



建材サンプルを使用した体験ワークショップ

訪問した建物の
解体現場数 **793カ所**

シンポジウム、
報告会への参加者数 **422人**

活動の全体目標に
対する達成度 **80%**

課題

残されているアスベストについて、震災に備える対策と解体時の対策を住民、建物所有者、事業者、作業員、自治体とともに進めることによって、リスクを最少にすること。

目標

都市型震災に備えて、石綿含有建材の使用状況調査、石綿の計画的除去、防災計画への石綿対策の追加。通常時の対策として、法規制の徹底と自治体条例制定、リスクコミュニケーションの推進、教育研修活動の強化。

活動内容

現状の把握のために、11自治体で解体現場での石綿含有建材取扱状況調査を実施し、その結果を各地で報告会を開催して報告した。パンフレット6点、報告書5点を作成、配布し注意喚起をした。東日本大震災被災地の石綿リスクをフォローし課題を指摘した。熊本地震被災地の調査を実施し、東日本大震災の経験を活かした石綿対策を推進した。全国各地の石綿問題に関わりリスクコミュニケーションを推進し、石綿ばく露を予防した。



破碎された石綿含有建材

達成できなかったこと

地域でのワークショップなどの活動が不十分なため、プロジェクトが主導して自治体条例を作るまでには至らなかった。

今後の展望

熊本地震での好事例を広め、リスクコミュニケーションを活用して問題を解決し、条例の制定をめざす。

成果と工夫した ポイント



成果

石綿含有建材の取扱いに問題があった解体現場45カ所で問題を指摘し改善を促し、石綿の飛散を防止した。熊本地震被災地で自治体と共に建物調査を実施し、危険性の高い建物を特定することで石綿の飛散を防止した。

工夫

分かりやすいパンフレットや建材サンプルを使って、作業員、住民、自治体担当者にアプローチする。